

事例 8 多面的・多角的に考察、構想し、表現する活動を工夫した事例

○学年 第3学年

○主な領域 (歴史的分野) C 近現代の日本と世界 (2) 現代の日本と世界

○事例のポイント

- ①ICT を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの場を一体的に充実させることにつながって、多面的・多角的に考察、構想、表現する活動を充実させる。
- ②世界と日本の関わり、特に国際社会における日本の立場や役割を考えさせることで、持続可能な社会の担い手として解決しなければならない課題について、広い視野に立って考察、構想、表現する活動を工夫する。
- ③現在の社会や生徒自らの生活とのつながりを意識させるための活動を工夫し、公民的分野との円滑な接続を図る。

ICTを活用した主な学習場面

- ・生徒が考えを広げたり、共有したりする場面
- ・クラウド上で教材や課題を教師と生徒で共有する場面
- ・生徒が自らの学びを蓄積する場面

ICT活用の利点

- ①共同編集ソフト(ロイロノート等)を活用することで、「個→集団→個」の流れでの学びを円滑にする。
- ②クラウドを活用することで、教師が提示する教材を生徒が意図的に選択して活用できる。また、教材を授業時間(同期)だけでなく、家庭学習の時間(非同期)に使用することが可能となる。教師が授業での課題を同期・非同期どちらで取り組ませるかを意図的に提示することで、反転学習を円滑に行えて、授業内での学習活動の重点化を図ることができる。
- ③問いの解を表計算ソフト(Google スプレッドシート等)に入力させることで、生徒の学びを教師が常時みとることができる。生徒は他者や教師から学びを得た時点で入力し直すことも可能であり、自らの学びを調整しながら蓄積することができる。

1 小単元名 「現代の日本と世界」(12時間)

2 小単元について(略)

3 小単元の目標と評価規準

(1) 目標

- ・戦後日本における民主化と再建の過程、冷戦下における日本の国際社会への復帰などをもとに、戦後の諸改革の特色や新しい日本の建設が進んだことについて理解するとともに、日本の経済発展と科学技術の発展によって国民の生活が向上し、グローバル化する世界において日本が果たす役割が変化したことについて理解する。
- ・戦後日本における諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、現代の社会の様子や、自分自身と歴史とのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について課題意識をもち、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ・日本の民主化と冷戦下の国際社会、日本の経済の発展とグローバル化する社会について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・戦後日本における民主化と再建の過程、冷戦下における日本の国際社会への復帰などをもとに、戦後の諸改革の特色や新しい日本の建設が進んだことについて理解している。	・戦後日本における諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、現代の社会の様子や、自分自身と歴史とのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について課	・日本の民主化と冷戦下の国際社会、日本の経済の発展とグローバル化する社会について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

<ul style="list-style-type: none"> 日本の経済発展と科学技術の発展によって国民の生活が向上し、グローバル化する世界において日本が果たす役割が変化したことについて理解している。 	<p>題意識をもち、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p>	
---	--------------------------------------	--

4 小単元の指導計画・評価計画（12時間）

●「学習改善につながる評価」 ○「評定に用いる評価」

次	学習活動等	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
第一次 単元の導入 課題把握 （1時間）	<p>第一次の課題 戦後、日本はどのように変化していくのだろうか</p> <p>・戦後の異なる時期における東京の写真について、どのように社会が変化していったかを予測して、時系列に並べてみる。</p> <p>ICT活用の利点① 共同編集ソフト（ロイノート等）を活用することで、「個→集団→個」の流れでの学びを円滑にする。</p> <p>事例のポイント③ 現在の社会や生徒自らの生活とのつながりを意識させるための活動を工夫し、公民的分野との円滑な接続を図る。</p> <p>・戦後から現代にかけて、<u>時系列に並べた写真の行間</u>を考える。日本が何をきっかけに変化したかを、年表をもとに考えて、小グループで話し合う。</p> <p>編 P 50 指導計画作成の留意事項(2)</p> <p>・課題の解を学習課題解決シートに入力する。<u>戦後から現在にどのようにつながっていくのか</u>、関心をもたせて単元を貫く問いの設定につなげる。</p> <p>ICT活用の利点③ 問いの解を表計算ソフト（Google スプレッドシート等）に入力させることで、生徒が自らの学びを調整し、蓄積できる。</p> <p>事例のポイント① ICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの場を一体的に充実させることにつなげて、多面的・多角的に考察、構想、表現する活動を充実させる。</p>				<p>●日本の民主化と冷戦下の国際社会、日本の経済の発展とグローバル化する社会について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。（観察・ワークシート）</p> <p>●戦後日本における諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、現代の社会の様子や、自分自身と歴史とのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について課題意識をもち、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。（学習課題解決シート）</p>
	<p>単元を貫く問い 日本が世界で果たす役割はどのように変化してきたのだろうか</p>				

第二次の課題 戦後の改革によって、日本はどのように変化したのだろうか

第1時の問い 敗戦国である日本はどのような苦難を乗り越える必要があったのだろうか

・敗戦直後の日本社会について理解し、戦後日本国民がどのような苦難に直面していたかを理解する。

編 P 50 指導計画作成の留意事項(5)

ICT活用の利点②

クラウド上で資料を配布することで、生徒が教材の活用方法や活用時間を意図的に選択できる。

事例のポイント③

現在の社会や生徒自らの生活とのつながりを意識させるための活動を工夫し、公的的分野との円滑な接続を図る。

第2時の問い GHQ の占領統治によって社会はどのように変化したのだろうか

・GHQ による戦後改革について整理する。戦前と戦後の変化に着目して、改革の内容について小グループでまとめる。

編 P 50 指導計画作成の留意事項(2)(6)(10)

ICT活用の利点①

共同編集ソフト（ロイロノート等）を活用することで、「個→集団→個」の流れでの学びを円滑にする。

事例のポイント①

ICT を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの場面を一体的に充実させることにつなげて、多面的・多角的に考察、構想、表現する活動を充実させる。

・課題の解を学習課題解決シートに入力する。第二次で得た学びを生かして第一次の課題の解を修正する必要がある場合は修正する。

編 P 50 指導計画作成の留意事項(6)

ICT活用の利点③

問いの解を表計算ソフト（Google スプレッドシート等）に入力させることで、生徒が自らの学びを調整し、蓄積できる。

●戦後日本における民主化と再建の過程をもとに、戦後の諸改革の特色や新しい日本の建設が進んだことについて理解している。
(ワークシート)

●戦後日本における諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、現代の社会の様子や、自分自身と歴史とのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について課題意識をもち、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
(学習課題解決シート)

第二次
(2時間)

第三次の課題 冷戦下において、日本と世界の関わりはどう変化していくのだろうか

第1時～第2時の問い 冷戦によって世界はどのように変化していったのだろうか

・冷戦の開始によって世界がどのように変化したのかを整理する。冷戦における世界の対立構造や、そこに起因する戦火を交えた事例について、小グループでまとめる。

編 P 50 指導計画作成の留意事項(2)(6)(10)

ICT活用の利点①

共同編集ソフト（ロイロノート等）を活用することで、「個→集団→個」の流れでの学びを円滑にする。

事例のポイント①

ICT を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの場面を一体的に充実させることにつなげて、多面的・多角的に考察、構想、表現する活動を充実させる。

第三次
(5時間)

第3時～第5時の問い 冷戦によって日本はどのように変化していったのだろうか

- 世界情勢の変化（冷戦の開始から緊張緩和までの変化）が日本にどのような変化を及ぼしたのかを小グループでまとめる。その際に「国内の変化」「対外的な変化」という2つの視点で整理する。

事例のポイント②

世界と日本の関わり、特に国際社会における日本の立場や役割を考えさせることで、持続可能な社会の担い手として解決しなければならない課題について、広い視野に立って考察、構想、表現する活動を工夫する。

- 日本の高度経済成長による光と影について「日本社会の変化」「国民生活の変化」という視点で理解する。

編P50 指導計画作成の留意事項(3)(9)

- 課題の解を学習課題解決シートに入力する。第三次で得た学びを生かして前次の課題の解を修正する必要がある場合は修正する。

編P50 指導計画作成の留意事項(6)

編P50 指導計画作成の留意事項(2)(6)(10)

ICT活用の利点①

共同編集ソフト（ロイロノート等）を活用することで、「個→集団→個」の流れでの学びを円滑にする。

- 戦後日本における民主化と再建の過程をもとに、戦後の諸改革の特色や新しい日本の建設が進んだことについて理解している。
(ワークシート)

ICT活用の利点③

問いの解を表計算ソフト（Google スプレッドシート等）に入力させることで、生徒が自らの学びを調整し、蓄積できる。

- 戦後日本における諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、現代の社会の様子や、自分自身と歴史とのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について課題意識をもち、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
(学習課題解決シート)

第四次の課題 冷戦終結後、日本や世界はどのような課題に直面しているのだろうか

第1時の問い 冷戦終結後、国際社会はどのような課題に直面しているのだろうか

- 冷戦後の国際社会が直面する課題について理解する。国際協調の動きやその難しさについて理解する。

ICT活用の利点②

クラウド上で資料を配布することで、生徒が教材の活用方法や活用時間を意図的に選択できる。

編P50 指導計画作成の留意事項(3)(9)(10)

第四次（2時間）

第2時の問い 冷戦終結後、日本はどのような課題に直面しているのだろうか

- 冷戦後の日本が直面する課題について理解する。世界情勢の変化が日本に与える影響について整理する。

編 P 50 指導計画作成の留意事項(3)(9)(10)

ICT活用の利点②

クラウド上で資料を配布することで、生徒が教材の活用方法や活用時間を意図的に選択できる。

- 日本の経済発展と科学技術の発展によって国民の生活が向上し、グローバル化する世界において日本が果たす役割が変化したことについて理解している。
(ワークシート)

事例のポイント②

世界と日本の関わり、特に国際社会における日本の立場や役割を考えさせることで、持続可能な社会の担い手として解決しなければならない課題について、広い視野に立って考察、構想、表現する活動を工夫する。

- 課題の解を学習課題解決シートに入力する。第四次で得た学びを生かして前次の課題の解を修正する必要がある場合は修正する。

編 P 50 指導計画作成の留意事項(6)

ICT活用の利点③

問いの解を表計算ソフト (Google スプレッドシート等) に入力させることで、生徒が自らの学びを調整し、蓄積できる。

- 戦後日本における諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、現代の社会の様子や、自分自身と歴史とのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について課題意識をもち、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
(学習課題解決シート)

第五次の課題 今後、日本や世界は何を課題としていくべきなのだろうか

第1時の問い 日本が世界で果たす役割はどのように変化してきたのだろうか
～自分の言葉でまとめてみよう～

- 第一次～第四次の学びを振り返り、単元を貫く問いの答えを学習課題解決シートに入力する。

編 P 50 指導計画作成の留意事項(6)

ICT活用の利点③

問いの解を表計算ソフト (Google スプレッドシート等) に入力させることで、生徒が自らの学びを調整し、蓄積できる。

- 戦後日本における民主化と再建の過程、冷戦下における日本の国際社会への復帰などをもとに、戦後の諸改革の特色や新しい日本の建設が進んだことについて理解している。
(学習課題解決シート)
- 日本の経済発展と科学技術の発展によって国民の生活が向上し、グローバル化する世界において日本が果たす役割が変化したことについて理解している。
(学習課題解決シート)

事例のポイント②

第1時で単元を貫く問いの答えを解決させることで、第2時において、持続可能な社会の担い手として解決しなければならない課題について構想させるための手がかりにさせる。

第五次
単元のまとめ (2時間)
本時

単元を貫く問いの解（例）

戦後、日本はGHQによって占領統治され、民主化・非軍事化のための改革が行われた。しかし冷戦が激化すると、アメリカの占領政策の転換によって、西側諸国の一員としての役割が求められ、独立し、国際社会に復帰した。戦後の日本は経済、科学技術の発展により国民生活が向上し、国際社会における政治的・経済的役割は拡大している。

冷戦が終結してもなお、国際社会においては民族・宗教対立・環境問題などの課題がある。日本においても領土問題、拉致問題、人権問題、少子高齢化、経済の停滞などの課題を抱えている。持続可能な社会を実現するために、国という枠組みを超えて国際社会の一員として役割を果たすことが求められている。

第2時の問い 持続可能な社会の実現に向けて、今後世界や日本は何を課題としていくべきなのだろうか

- ・ 持続可能な社会の実現に向けて日本にはどのような課題があるかを、単元を貫く問いの解を踏まえて整理する。

編 P 50 指導計画作成の留意事項(3)(6)(9)

- ・ 小グループで過去3日間の新聞を分担して読み、上記で挙げた課題に関連して、今現在具体的に課題として存在している事例だと考えられる記事を切り抜き、写真に撮って小グループで紹介し合う。

事例のポイント①②③
現在の社会とのつながりを意識させ、持続可能な社会の担い手として多面的・多角的に考察、構想、表現する活動を工夫する。

ICT活用の利点①
共同編集ソフト（ロイロノート等）を活用することで、「個→集団→個」の流れでの学びを円滑にする。

- ・ 持続可能な社会の実現に向けた課題で日本や世界が最優先で取り組むべき課題とその理由を小グループで話し合う。

編 P 50 指導計画作成の留意事項(2)(6)(9)(10)

事例のポイント①②③
現在の社会とのつながりを意識させ、持続可能な社会の担い手として多面的・多角的に考察、構想、表現する活動を工夫する。

ICT活用の利点①
共同編集ソフト（ロイロノート等）を活用することで、「個→集団→個」の流れでの学びを円滑にする。

ICT活用の利点①

共同編集ソフト（ロイロノート等）を活用することで、「個→集団→個」の流れでの学びを円滑にする。

編 P 50 指導計画作成の留意事項(2)(6)(9)(10)

- ○日本の民主化と冷戦下の国際社会、日本の経済の発展とグローバル化する社会について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。（観察・ワークシート）

- 戦後日本における諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、現代の社会の様子や、自分自身と歴史とのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について課題意識をもち、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。（ワークシート・発表）

<p>・課題の解を学習課題解決シートに入力する。第五次で得た学びを生かして前次の課題の解を修正する必要がある場合は修正する。</p> <p>編 P 50 指導計画作成の留意事項(6)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ICT活用の利点③</p> <p>問いの解を表計算ソフト（Google スプレッドシート等）に入力させることで、生徒が自らの学びを調整し、蓄積できる。</p> </div>	○	<p>○戦後日本における諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、現代の社会の様子や、自分自身と歴史とのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について課題意識をもち、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。（学習課題解決シート）</p>
---	---	--

5 本時の学習指導（12/12 時間）

(1) 目標

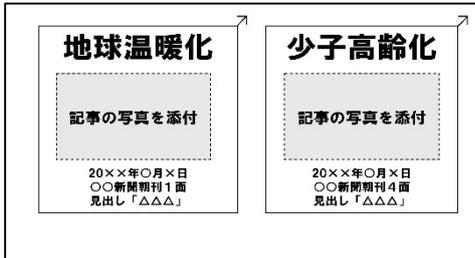
- ・現代の社会の様子や、自分自身と歴史とのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について課題意識をもち、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ・よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

(2) 展開

学習活動等	・指導上の留意点	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">観点</div> 具体の評価規準
1 単元を貫く問いの解についてグループ（4人1組の社会科班）内で簡単に意見を共有する。 2 本時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本が世界で果たす役割について意見交換をさせ、「現在まで」の日本の役割や課題について整理させる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">課題</div> 持続可能な社会の実現に向けて、今後世界や日本は何を課題としていくべきなのだろうか		
3 今までの学習内容から「 <u>持続可能な社会の実現に向けた課題</u> 」として考えられる内容を整理する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ICT活用の利点①</p> <p>共同編集ソフト（ロイロノート等）を活用することで、「個→集団→個」の流れでの学びを円滑にする。</p> </div> 4 3で考えたことと実際の社会を結び付ける。 (1)グループ（4人1組の社会科班）内で教師が用意した新聞記事（各グループ4紙×3日分）を分担する。 (例 Aさん：W紙 Bさん：X紙 Cさん：Y紙 Dさん：Z紙)	<ul style="list-style-type: none"> ・小単元の学習を生かして「今後（未来）」に目を向けさせる。現在と未来の日本や世界の課題を構想させることを目指した課題であることを認識させる。 ・共同編集ソフト（ロイロノート等）を用いて「持続可能な社会の実現に向けた課題」として考えられる具体的内容を簡単なキーワードで入力させる。 (例：地球温暖化、民族・宗教対立、食料問題、エネルギー問題、少子高齢化など) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>事例のポイント①③</p> <p>ICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの場面を一体的に充実させることにつなげ、多面的・多角的に考察、構想、表現する活動を充実させる。現在の社会や生徒自らの生活とのつながりを意識させるための活動を工夫し、公民的分野への接続を図る。</p> </div>	

(2) 個別に活動する。

- ・「持続可能な社会の実現に向けた課題」として考えられる記事を切り抜いて写真で撮影する。
- ・撮影した新聞記事と3で入力した内容を関連付け、新聞記事の写真と関連付ける。



(3) グループ（4人1組の社会科班）で共有する。

- ・グループごとの共同編集ページで(2)で作成した内容や意見を共有する。

(4) グループで協議する。

- ・班で共有したものの中から、日本や世界が最優先で取り組むべき課題とその理由について意見をまとめる。

事例のポイント②

世界と日本の関わり、特に国際社会における日本の立場や役割を考えさせることで、持続可能な社会の担い手として解決しなければならない課題について、広い視野に立って考察、構想、表現する活動を工夫する。

(5) 全体で共有する。

- ・他のグループが入力した意見を読み、自分のグループになかった視点を得る。

5 本時の課題に対する解を考える。

ICT活用の利点②③

クラウドを活用して学習課題解決シートに入力させることで、生徒が授業後も継続して、思考・判断・表現する機会を作れる。同期・非同期どちらで取り組ませるかを生徒に選択させることで、反転学習を円滑に行えて、次の授業での学習活動について重点化を図ることができる。問いの解を表計算ソフト（Google スプレッドシート等）に入力させることで、生徒が自らの学びを調整し、蓄積できる。

- ・新聞記事について、教師が用意したものを使用させることで、グループ間の条件を同じにする。多面的・多角的な視点をもたせることにつなげる。
- ・記事を切り抜く際は記事の情報（新聞社・面・見出し）を必ず控えさせる。撮影した新聞記事を共同編集ソフト（ロイロノート等）にアップロードする際、記事の情報も入力させる。
- ・新聞記事と3で入力させた内容が関連付けられない場合は、新聞記事の写真のみをアップロードさせる。
- ・共同編集ページに共有されたものを自由に見合う時間を設定させ、質問がある場合は適宜質問させる。
- ・最優先と判断する際の基準は次のとおりとする。①緊急性が高い②日本や世界が解決しなければ国際社会に大きな影響を与える。
- ・班としての意見をまとめたら、意見を共同編集ソフト（ロイロノート等）に入力させる。

主

よりよい社会の実現を視野にここで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

（共同編集ソフトで入力した内容）

思・判・表

現代の社会の様子や、自分自身と歴史とのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について課題意識をもち、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。（共同編集ソフトで入力した内容）

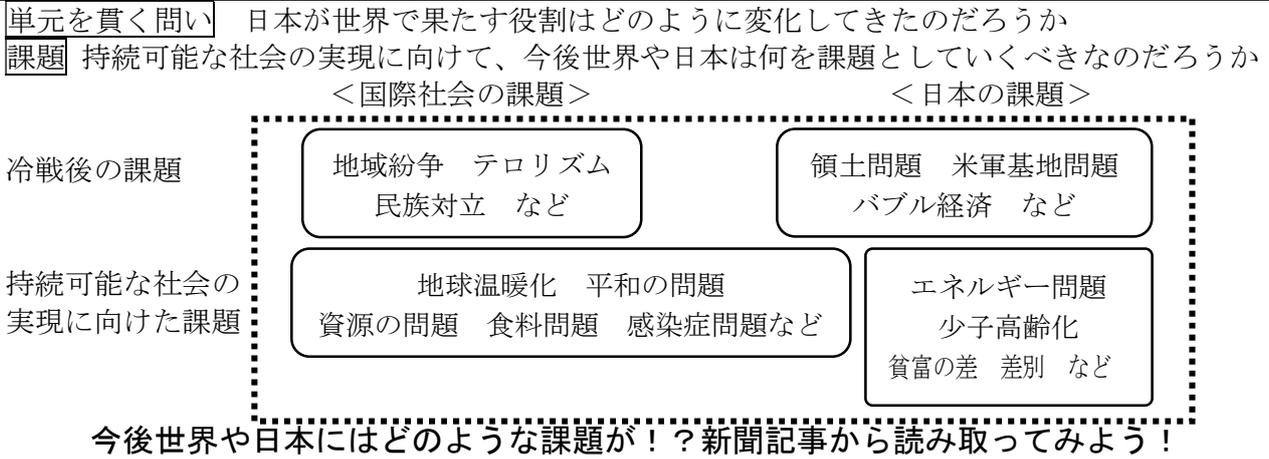
思・判・表

現代の社会の様子や、自分自身と歴史とのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について課題意識をもち、多面的・多角的に考察し表現している。（学習課題解決シート）

まとめ (例)

グローバル化が進む中で、一国では解決できない課題（平和・環境・資源・食料・感染症など）に世界は向き合う必要がある。日本国内においては、少子高齢化、貧富の差、都市部と地方の格差、男女共同参画、多文化共生など、持続可能な社会の実現に向けた課題が多くあり、国際社会の一員として自分事として向きあっていく必要がある。

6 板書計画または板書の写真



7 事例のポイントと考察

(1) 事例のポイントについて

- ① ICT を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの場面を一体的に充実させることにつなげて、多面的・多角的に考察、構想、表現する活動を充実させる。

中学校学習指導要領では、社会科の目標である、公民的資質・能力の育成のために、多面的・多角的に社会的事象を考察させることの重要性が示されている。

生徒が多面的・多角的に考察、構想、表現する力を培うためには、「個」→「集団」→「個」の流れでの学びが必要であると考え。特に、複数の立場や意見を踏まえて考える「多角的」思考力を向上させるためには、ICT 活用が有効である。

本事例では、1人1台端末を文房具のように常時活用することを前提として、単元計画を設定した。ICT を効果的に活用することで、授業内（つまり「同期」）にとどまらず、授業外（つまり「非同期」）においても協働的な学びを継続することが可能となると考えた。本事例では以下（A・B）を活用することで生徒の多面的・多角的に考察、構想、表現する活動の充実を図っている。

A 共同編集ソフト（ロイロノート等の活用）



日本や世界が最優先で取り組むべき課題は？

北朝鮮による日本人拉致問題などの国際的な人権課題

【理由】

- 一刻も早く解決しなければならない深刻な人権問題である。日本が他国と連携して拉致問題の解決を図ることが、将来に国際社会で人権を守っていく姿勢につながる。
- 一国でも人権侵害をしている事実を許してしまえば、国際社会として人権を守っていくことが困難になるから、人権問題は日本だけの問題ではなく、世界で考えていく問題であることを日本は発信する責務がある。

共有ノートにグループごとのカードを用意。各グループに割り振られたカード上で共同編集する。

各グループが編集したカードの例。各々が意見を書き込んだり、他者の意見を参照したりできる。同期・非同期関係なく何度でも閲覧・編集可能である。

B 表計算ソフト（Google スプレッドシート等）の活用

「日本国憲法」という大きな単元における問いを意識させる

「日本国憲法の三大原則」「基本的人権の尊重」の2つの単元の中の1つを中単元という枠組みに設定

授業1時間（原則教科書の見開き1ページ分）を小単元として「問い」を設定し「問い」を解決した答えを入力させる

※授業後に設定した期限内にいくらかでも入力の手続きが可能（学習を進める中で新たに得た気づきを反映させるため）

中単元を貫く「問い」を常に意識させて毎時間の授業に主体的に参加させる

学習課題解決シートの例。問いに対する解を入力する。自らの学習を調整するために期限を設けて何度でも過去に遡って編集可能とする。教師が常に閲覧可能なため、授業改善や個別の指導が容易となる。

- ② 世界と日本の関わり、特に国際社会における日本の立場や役割を考えさせることで、持続可能な社会の担い手として解決しなければならない課題について、広い視野に立って考察、構想、表現する活動を工夫する。

本事例で扱った内容（歴史的分野 C 近現代の日本と世界 (2) 現代の日本と世界）は、言うならば歴史的分野の学習における集大成としての位置付けである。過去と現在を結び付け、未来につなげるという点で、中学校学習指導要領で示された目標である、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者を育成する上で、重要な単元であると考えた。また、本事例で扱う内容は、学習指導要領において、歴史的分野で唯一「構想」させることが求められていることに留意することが大切である。社会科における構想とは、課題を追及したり解決したりする活動において、課題の解決のために社会的な見方・考え方を働かせることである。

現行学習指導要領改訂の趣旨において、主体的に社会の形成に参画しようとする態度が課題であるとされている。この課題を踏まえて、授業で求められることとして、自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度などを育成することとしている。現在の日本へとつながる過程を、国際社会との関わりの中で考えさせることで、広い視野に立って考察、構想、表現する力の育成につなげている。

- ③ 現在の社会や生徒自らの生活とのつながりを意識させるための活動を工夫し、公民的分野との円滑な接続を図る。

本事例では、NIE（Newspaper in Education）の視点を取り入れている。NIEとは教育活動に新聞を取り入れる取組のことである。

現行学習指導要領改訂の基本的な考え方として、主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成が示されている。公職選挙法改正に伴う選挙権年齢の引き下げ（満20歳以上→満18歳以上）も踏まえ、良識ある主権者の育成が一層求められること、身近な地域社会から地球規模に至るまでの課題の解決の手がかりを得ることが、社会科という教科に求められていると考える。また、ESD（持続可能な開発のための教育）や主権者教育は社会科の学習において重要な位置を占めているとされている。

NIEはESDとの親和性が高いと判断し、持続可能な社会の担い手を育成するために有効であると考え、本事例で取り入れた。

なお、日常的に新聞を活用して、学習内容と現在の社会や生徒自らの生活とのつながりを意識させる活動を継続的に行うことで、公民的資質・能力が育つと考える。以下の取組を授業の最初の5分程度で実施することも有効である。

(2) 実践に当たっての留意点

本単元は歴史的分野の集大成となる単元である。地理的分野、歴史的分野の学習内容を踏まえて、公民的分野に接続するという意味でも、以下の点に留意することが大切である。

・「過去→現在→未来」という視点

本単元の学習内容は現在の生活に直結していく部分を扱う。歴史的分野の学習を踏まえながら、現代の課題に目を向けさせることが重要となる。世界と日本の関わりを意識させたり、国際社会における日本の立場や役割が大きくなっていくことを理解させたりする学習活動を展開していくことで、持続可能な社会の担い手として解決しなければならない課題を多面的・多角的に捉える力を育成したい。

また、歴史的な見方・考え方を働かせることで、現代の課題について考察、構想し、表現させる活動を通して公民的分野を学習する必要感をもたせたい。今までの学習を通して働かせてきた歴史的な見方・考え方、地理的な見方・考え方だけでは、現代の課題について本質的に理解するためには不十分である。本単元における指導計画では、11/12で単元を貫く問いの解を考察させ、12/12で今後の日本や世界が向き合うべき課題とは何かを構想させる。歴史的分野の最後の時間に課題の構想をさせることで、政治、経済の仕組みや合意形成の過程など、多様な視点に気付かせ、公民的分野の学習に向けた課題意識をもたせることができるように単元計画を作成した。

・歴史的分野から公民的分野への接続

学習指導要領解説にもあるように、現代社会の諸課題についての個別の知識を獲得することが第一義的目標ではない。大切なことは社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて、自らの考えや意見を提案したり、議論したりする学習の過程を通して、歴史の大きな流れの中で現代の課題を考え続ける姿勢をもてるようにすることである。授業時数が不足して、知識の習得で終わらせてしまうことがないよう、社会的な見方・考え方を働かせる学習活動を展開できるように、単元計画を構成する必要がある。

公民的分野の学習へ向けた課題意識をもたせるために、現代の社会や身近な生活を意識させるための問いの設定や学習活動の展開が有効である。本事例では、その手立てとして、新聞の活用を行っている。現代の社会や身近な生活とのつながりに気付かせながら課題意識をもたせるために、新聞の活用は非常に有効である。